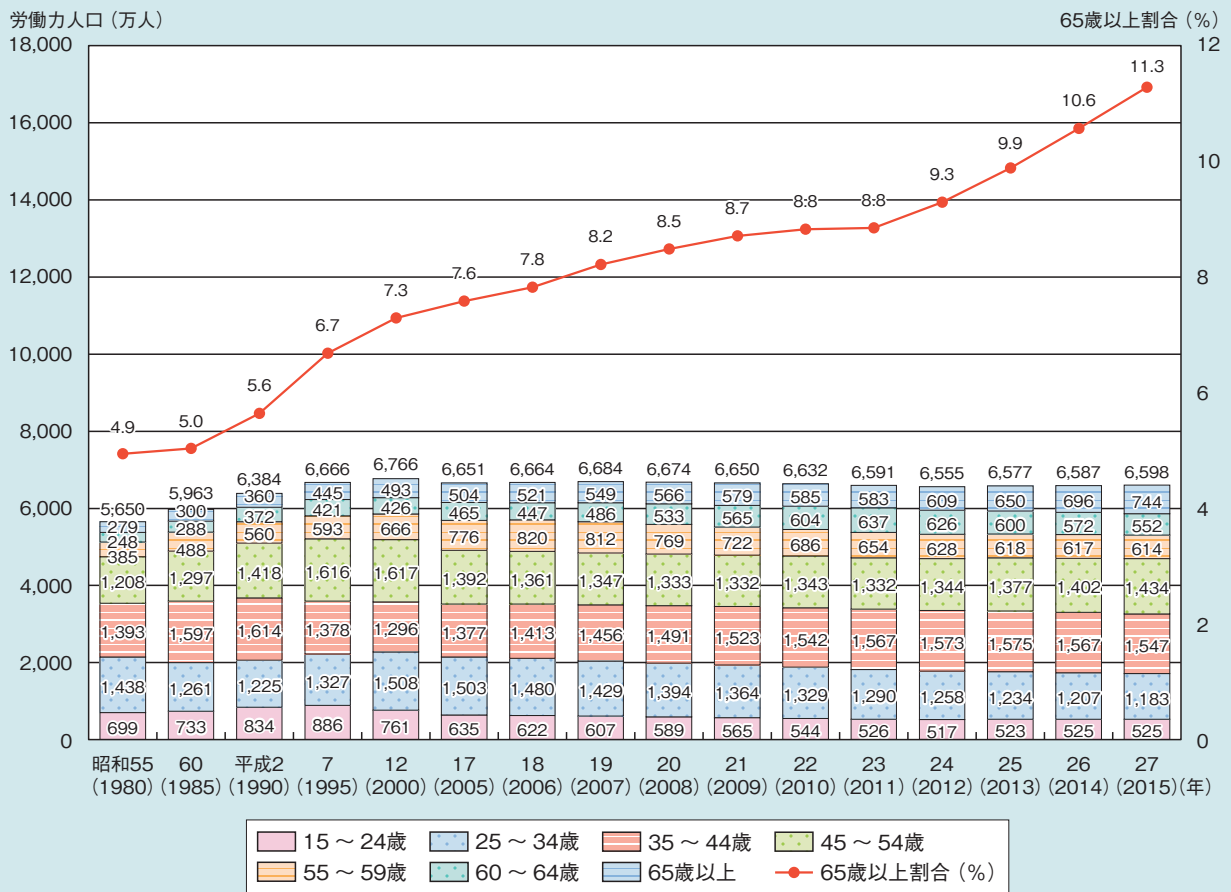


図1-2-26 労働力人口の推移



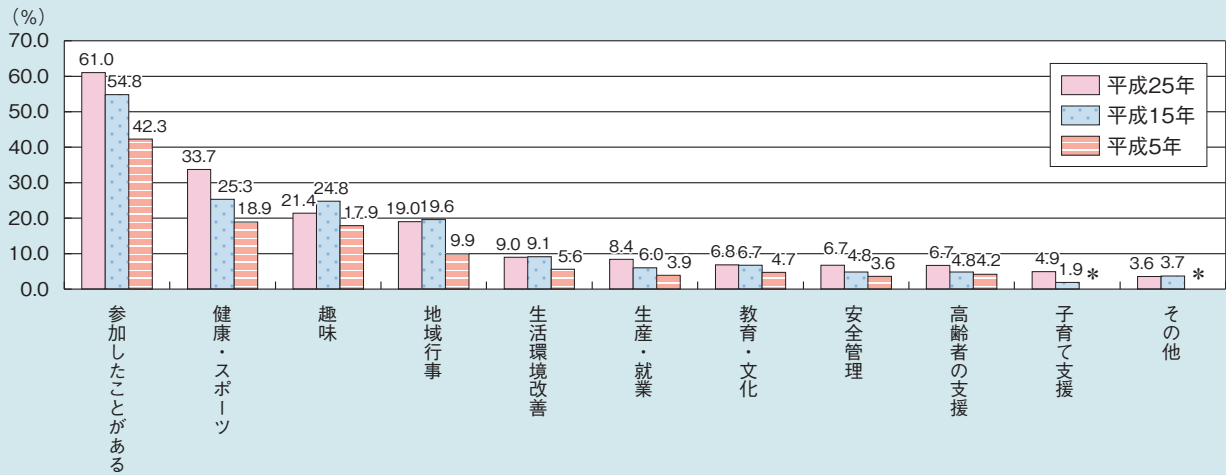
資料：総務省「労働力調査」（年齢階級別労働力人口及び労働力人口比率）より内閣府作成
 (注1)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。
 (注2)平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

5 高齢者の社会参加活動

○グループ活動に参加したことがある高齢者は約6割

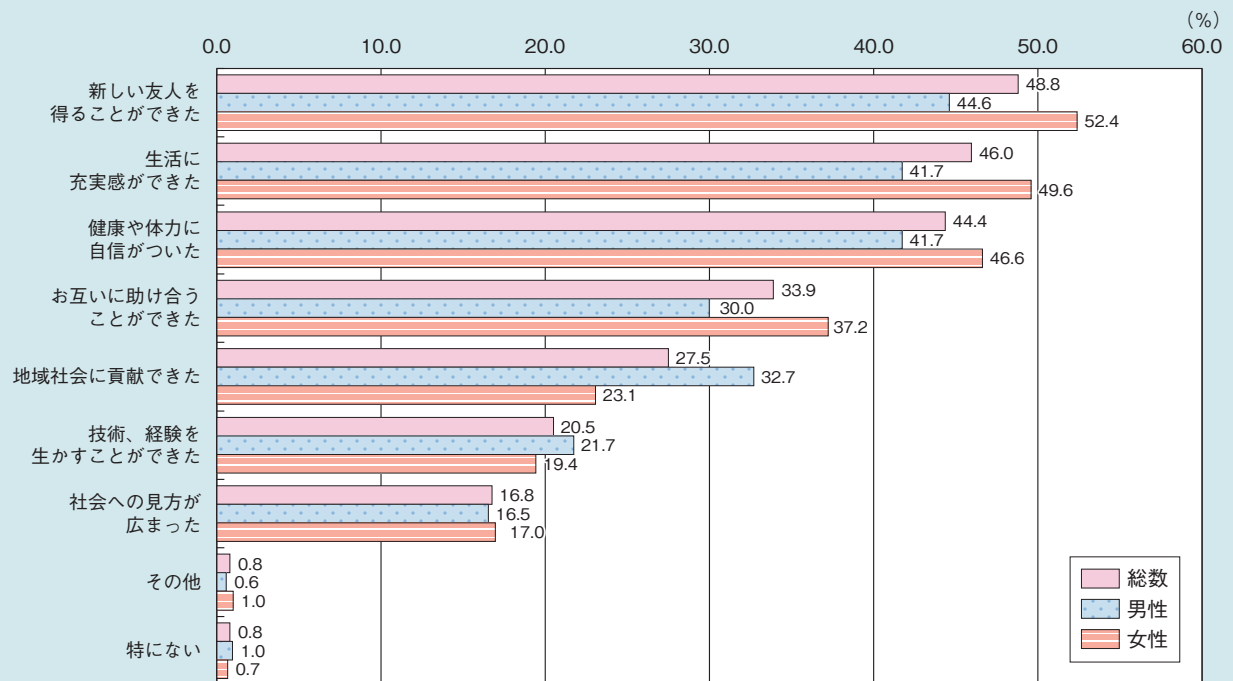
- ・60歳以上の高齢者の61.0%は何らかのグループ活動に参加したことがあり、20年前と比べて18.7ポイント増加している（図1-2-27）。
- ・自主的なグループ活動に参加したことがある高齢者の、活動全体を通じて参加してよかったことは、「新しい友人を得ることができた」（48.8%）が最も多く、次いで「生活に充実感ができた」（46.0%）、「健康や体力に自信がついた」（44.4%）の順となっている（図1-2-28）。
- ・高齢者が参加したい団体をみると「趣味のサークル・団体」（31.5%）が最も多く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」（29.7%）となっている。また、参加している団体をみると、「町内会・自治会」（26.7%）が最も多く、約4人に1人が参加している（図1-2-29）。

図1-2-27 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



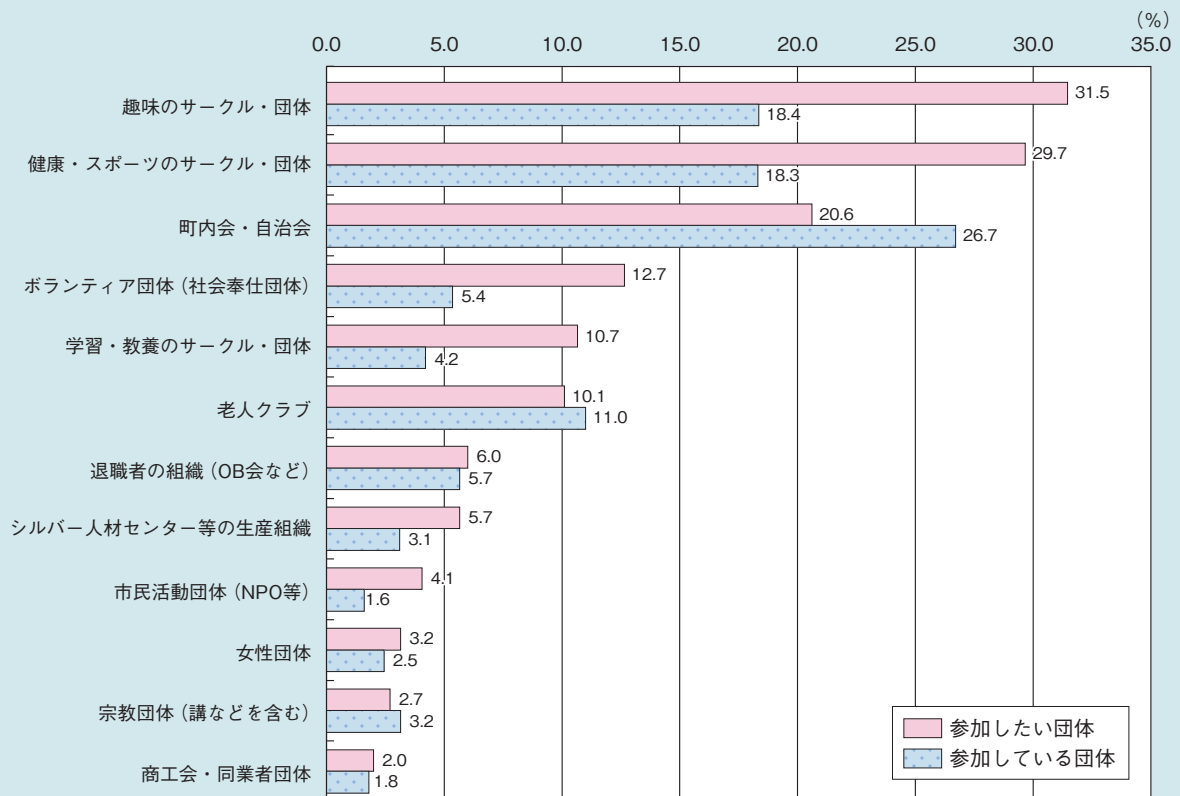
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女
 (注2) *は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。

図1-2-28 高齢者のグループ活動参加による効果（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女

図1-2-29 参加したい団体と参加している団体（複数回答）

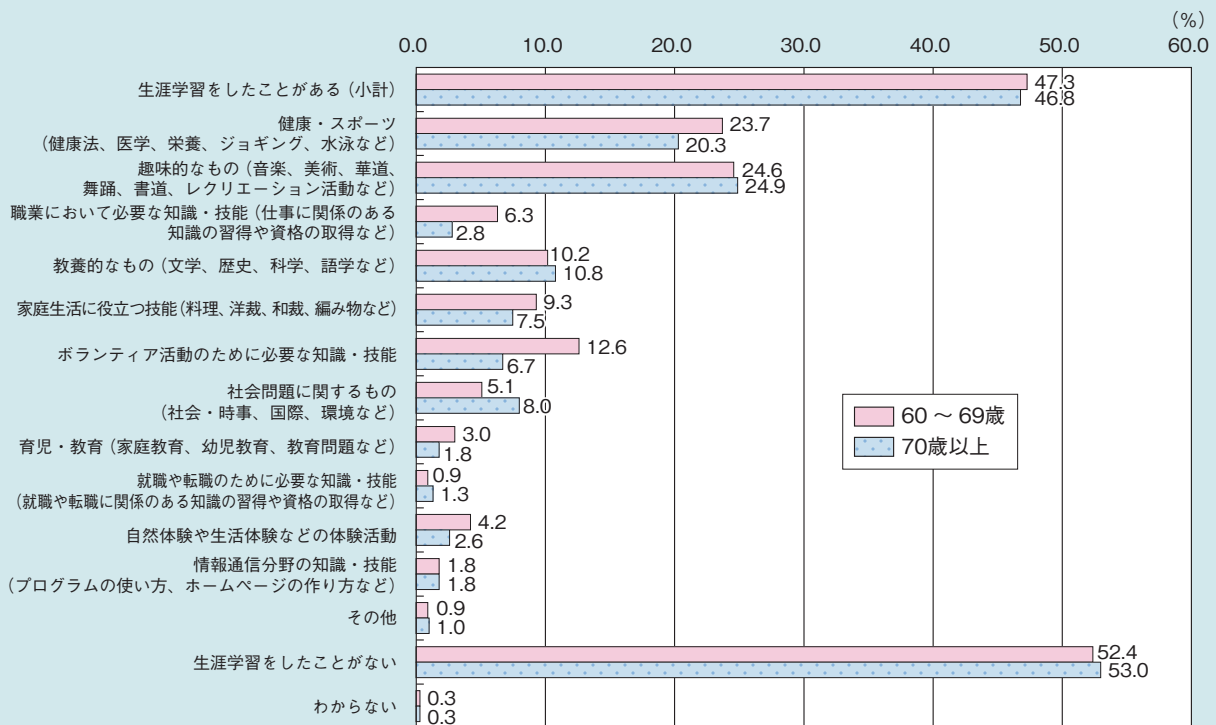


資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成25年）
 (注1) 調査対象は、全国の60歳以上の男女
 (注2) 「その他」や「参加したくない」などの回答を除く

○生涯学習を行っている高齢者は4割以上

- ・高齢者の生涯学習（人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のこと）への参加状況についてみると、この1年くらいの間に生涯学習をしたことのある人は、60代でも70歳以上でも4割以上であった。内容は、「趣味的なもの」が60代で24.6%、70歳以上で24.9%と最も多く、次いで「健康・スポーツ」（60代23.7%、70歳以上20.3%）となっている（図1-2-30）。

図1-2-30 高齢者が行っている生涯学習（複数回答）

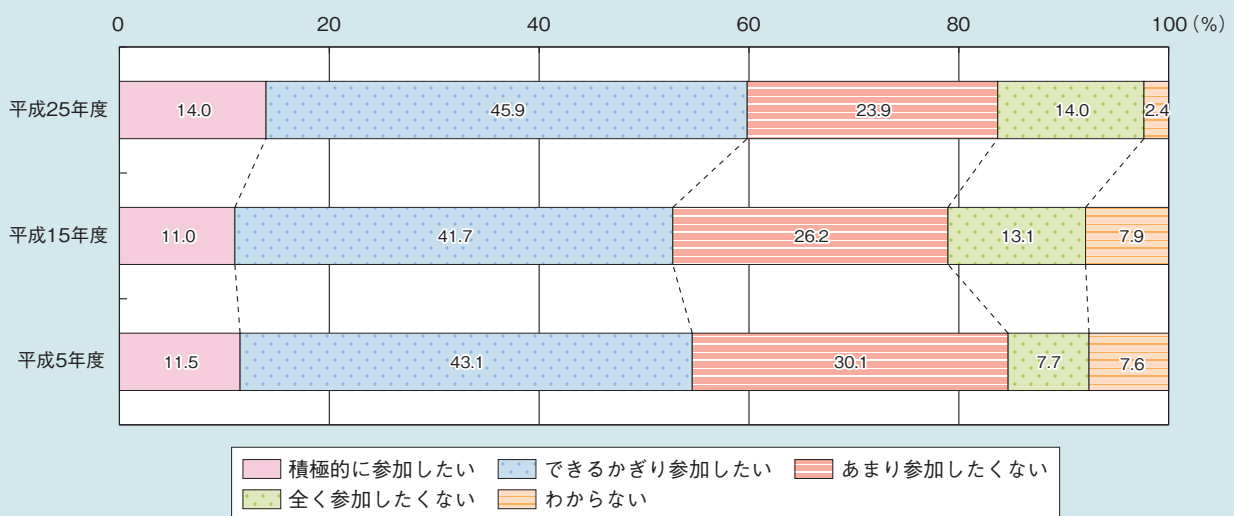


資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」(平成27年)
 (注) 調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者だが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

○約6割の高齢者が若い世代との交流に参加したいと考えている。

・高齢者の若い世代との交流の機会への参加意向についてみると、「積極的に参加したい」「できるかぎり参加したい」と回答した人の合計は平成25(2013)年で59.9%となっており、10年前に比べると7.2ポイント増加している。(図1-2-31)。

図1-2-31 若い世代との交流の機会の参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成25年)
 (注) 調査対象は、全国の60歳以上の男女